

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：33921

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00635

研究課題名(和文)外国人児童のための日本語学習支援システムの構築

研究課題名(英文)Development of a Japanese Language Learning Support System for Foreign Children

研究代表者

山本 裕子(Yamamoto, Hiroko)

愛知淑徳大学・交流文化学部・教授

研究者番号：20410657

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、外国人児童の教科学習につながる日本語学習支援環境の提供を目指したものである。生活科、社会科、算数科、理科、国語科の全学年の小学校教科書語彙をリスト化した。語は、形態素解析(MeCab-Unidic)で抽出可能な短単位だけでなく、学習支援で有効活用できるように、複合語も含めて抽出した結果、異なり語数約19,000語、延べ語数約450,000語と膨大な量に上るものとなった。そこで学習支援者が利用しやすいよう、WEB上で閲覧、検索可能なツールとして研究成果を公開した。さらに教科、学年、頻度を基に、より基本的と考えられる語を「教科書基礎語」とし、簡便に活用可能な基礎資料の提供を可能にした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は次の2点に集約できる。1)精度の高い基礎資料の作成：教科書の表記は、漢字の学年配当の問題があるため、そのままでは正確な形態素解析が難しい。また、表記を修正しても解析ミスは起こる。そこで、解析ミスをチェックするツールを作成し、精度の高いデータを収集した。その結果これまでのこうした研究と異なり、本研究では短単位だけでなく、複合語を含め、網羅的に語を収集し、価値の高い基礎資料とすることができた。2)活用しやすい形での資料の提供：学習支援者が活用しやすいよう各種の検索機能を備えたりリストをWEB上に公開した。今後、教育現場との連携の下、学習支援に実際に活用していくことが期待できる。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to provide a Japanese language learning support environment that facilitates academic learning for foreign children. We listed the vocabulary from elementary school textbooks across all grades for subjects such as Life Environment Studies, Social Studies, Mathematics, Science, and Japanese. The vocabulary includes not only short units extractable through morphological analysis (MeCab-Unidic) but also compound words to enhance usability in learning support. As a result, the list comprises approximately 19,000 distinct words and a total of about 450,000 words. To make this resource accessible for learning supporters, we have published the results as a searchable tool on the web. Additionally, considering the subject, grade, and frequency, we have compiled a list of fundamental words deemed "Textbook Basic Words," thus providing an easily usable resource.

研究分野：日本語教育

キーワード：小学校教科書 全教科・全学年 短単位 複合語 教科書語彙 学習基礎語 教科基礎語

1. 研究開始当初の背景

日本語学習を必要とする外国人児童(注:ここでは外国籍のみならず日本国籍で日本語指導が必要な児童も含むものとする)は増加の一途を辿っており、問題が深化、複雑化している。この状態は、本研究開始時のみならず、現在においても続いている。年少者に対する日本語教育は、成人を対象にする場合とは異なり、認知能力の発達段階を踏まえた教育が必要である。また、児童の背景の多様化に伴い、日本語を第二言語とする児童だけでなく、日本語を第一言語としながらも十分にその言語能力が伸びない児童も増えている。こうした児童は、日常会話の力については、教科学習に必要な語彙や読み書きの力(学習言語)が身につけていないことも多いため、授業についていけない児童も多い。

学習言語の習得において特に要となるのは語彙であるとされている。バトラー後藤(2011)は、教科学習を行うには、特に学習の基礎となる語、いわゆる「学習語彙」が重要な役割を果たすが、これらはすでに知っていることが前提となっている場合が多く、学習の中で意味や使い方が示されることが少ないと指摘している。このように、教科学習に必要な基礎語彙が身につけていないことが、教科学習を妨げている要因の一つと考えられる。

そこで、本研究においては、外国人児童の授業でのつまずきと、学習語彙の習得の困難さはどうのように関わっているかという問いをもとに、小学校の教科学習に直結する教科書語彙の調査を通して学習のためのツールを開発し、小学校の教科学習の支援に役立つ環境を提供したいと考えた。これが本研究の出発点である。

2. 研究の目的

本研究では、教科学習につながる日本語学習支援策の一つとして、外国人児童の語彙学習に役立つ支援環境を構築することを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 対象とした教科書

教科学習支援に役立つツールを開発するためには、教科学習に必要な語彙の抽出が必要である。そのため、まず、愛知県尾張地方で用いられている最新の教科書を対象とし、教科書語彙をリスト化することとした。

表1 分析対象教科書

教科	教科書名	出版社	発行年
生活科	あたらしいせいかつ	東京書籍	令和2年
国語科	国語	光村図書	令和2年
算数科	わくわく算数	啓林館	令和3年
理科	新しい理科	東京書籍	令和3年
社会科	新しい社会	東京書籍	令和3年

(2) 語彙の取り出し手順

教科書からの語彙の取り出しは、以下の3つの段階に分けて進めた。

【1. 準備段階】

教科書のテキストデータ化:教科書のどの部分をデータ化の対象とするのか、教科ごとに検討した。基本的に目次や索引等を除くすべての本文(図表も含む)を対象とした。ただし、国語に関しては、教科書によって掲載されている作品が異なるため、作品部分のみ除外することとした。

語彙リスト作成手順の確立:まず、社会科の教科書の分析を行い、どのような手順でリスト化を行うかの検討を行った。(山本・川村・鷲見 2022)

【2. 教科ごとの語彙リスト作成段階】

形態素解析による語(短単位)の抽出:小学校教科書は学年に応じた漢字使用がなされるため、成人向けの文章と異なり、特に低学年において、ひらがなのみの表記や、漢字とひらがなが混ざった表記がされる場合がある。そのため、テキストをそのまま形態素解析することはできない。そこで、まず教科書本文を一般的な漢字仮名交じり文に直し、その上でさらに、正しく解析できているか(単語の区切りだけでなく、読みや品詞を含む)を随時確認しながら、解析作業を行う必要がある。(これは4でも述べる)その際、BCCWJのような大規模コーパスでは、語が短単位で収録されていることを考慮し、本研究でも汎用性を重視して、まず、短単位での抽出を行った。

複合語の抽出:実際に教科書で用いられている形での語の抽出。例えば、「図書」は教科書の中で、「図書館」「図書室」「図書係」「図書委員」「図書委員会」等の様々な形で用い

られる。語彙の学習には、こうした実際の形での情報も重要であるため、に加えて、複合語の抽出も行うこととした。(山本・川村・鷲見 2023)
教科ごと、学年ごとに各語(複合語を含む)の頻度を整理した。

【3. 小学校教科書語彙リスト完成段階】

リストの統合: 各教科の学年ごとのリストを統合し、全教科・全学年を1つのリストにまとめた。

WEB版の小学校教科書語彙リストの作成: どのような検索が必要、有効かを検討し、検索システムを備えたWEB版リストを作成した。

「教科書基礎語」の選定: 学習支援における指標の一つとなるものの提供を目指し、各語の教科・学年での頻度情報を基に、教科書の学習に必要性が高いと思われる語を「教科書基礎語」として抽出して、リスト上にも記載した。

4. 研究成果

研究成果について、(1)語彙リスト作成のために開発したツール、(2)完成した語彙リストの公開と特徴、(3)成果の公表の3つの面から述べる。

(1) 語彙リスト作成のために開発したツール(山本・川村 2023 参照)

MeCab チェッカーの開発^{注1}

まず、テキストデータを解析する際に生じる問題を解決する必要があった。教科書の表記は漢字の学年配当との関係で、学年ごとに異なる。1年生の前半では全てがひらがなだが、漢字学習の進展に伴い漢字が徐々に増えていく。その際、熟語を構成する漢字のうち学習済みの漢字以外はひらがな表記という、いわゆる交ぜ書きの形で書かれることも多い。教科書の表記方法のまま形態素解析を行うと以下のような問題が生じる。

- ・ひらがなだけで書かれた文(いわゆるひらがなのべた書き)では誤解析が頻繁に起きる。
- ・交ぜ書きの語の解析結果は、単語によって異なる。
- ・読み情報の誤りや品詞情報の誤りが起きる。

漢字仮名交じりの一般表記に直して解析を行うことで、ある程度の誤解析は回避できるが、やはり目視によって解析結果を確認することが不可欠である。そこで、形態素解析による誤解析へ対応するために、MeCab-Unidic の解析結果をチェックし、誤解析があれば「誤解析リスト」として記録を残せるツール「MeCab チェッカー」を開発した。

「MeCab チェッカー」には、次のような特徴がある。1)リストの見出し語は基本的には語彙素を用いるが、MeCab の語彙素では区別されていないが、小学校の学習では漢字の書き分けが必要な動詞(例:「変わる」「代わる」「替わる」は語彙素では、すべて「変わる」になる)もあるため、動詞については「小学語彙素」として、MeCab の出現形の基本形を出力する、2)解析の誤りがあった場合、「誤解析リスト」として記録を残せる。さらに、単語区切りや読み誤り等が起こりやすい語句(例えば動植物名や固有名詞等)については、3)あらかじめ誤解析を回避するために制約条件で語句を指定できるようにした。例えば「段ボール」は「段+ボール」に分けるのではなく「段ボール」で一語と考えたい。このような場合、制約条件に「段ボール」を一語(名詞)と解析するように条件を記述しておく、と「段ボール」を一語として解析できる。

頻度集計ツール^{注2}

「頻度集計ツール」は解析した結果を集計し、指定した条件でグループ化して、頻度を集計することが可能なツールである。このツールも、a と同様に、制約条件を設定することができる。また、解析結果は、以下のように様々な単位でグループ化できる。

小学語彙素 / 小学語彙素+小学語彙素読み / 小学語彙素+小学語彙素読み+品詞大中小語彙素 / 語彙素+語彙素読み / 語彙素+語彙素読み+品詞大中小
--

ファイル結合ツール^{注3}

このようにして教科ごとの語の頻度リストが作成できるが、その後、複数の教科を結合して、全体で一つのファイルにまとめる必要がある。そこで基準となるファイルに、別のファイルを追加して結合するツールを開発した。本研究では、まず社会科の語彙リストを作成したので、社会科のリストを基準にし、理科、算数科、国語科と追加していった。同一の見出し語であれば、新たな教科の列(頻度の入った列)が追加され、これまでにない見出し語であれば、新規の見出し語として行が追加され頻度の列も追加される。このようにして、全体を統合した大きなリストを作成することができた。

以上のツールは教科書語彙の抽出以外にも活用可能なツールである。

(2) 語彙リストの公開と特徴

完成した「小学校教科書語彙リスト(以下、教科書語彙リスト)」の概要として、教科書から抽出した語彙の総数を表2に、教科ごとの語彙数を表3に示す。(山本・川村・鷲見 2024a より)

表2 教科書語彙リストの語数

	異なり語数	延べ語数
語(短単位 MeCab)	11,912	397,143
複合語	7,232	48,127
総数	19,144	445,270

表3 教科ごとの語数

教科	対象学年	異なり語数	延べ語数
国語	6 学年分	7,004	85,829
算数	6 学年分	3,445	99,097
理科	4 学年分	4,857	106,713
社会	4 学年分	12,399	143,358
生活	2 学年分	1,724	8,254

教科書語彙リストは、教科ごと学年ごとに頻度をカウントしてエクセルファイルでリスト化しているが、そのままではファイルのサイズが非常に大きいという問題もあり、また、使い勝手もよくない。そこでWEB上で閲覧、検索が可能なツールとして公開することにした^{注4}。

WEB版教科書語彙リストの主な特徴は以下のとおりである。

- 学年・教科別に語(短単位と複合語)の出現頻度数を表示
- 見出し語、読み、品詞等の他、備考欄に語種などの情報を記載
- 教科や学年、頻度を指定した検索が可能(図1)
- 単語、読み、用例を対象に、完全一致、部分一致、前方一致、後方一致で検索が可能(図2)
- 検索結果がダウンロード可能

図1 WEB版教科書語彙リストのインターフェイス

図2 多様な条件指定

本リストは、単語だけでなく複合語も含まれているので、語が、どの教科や学年でどのように使われているかが一目でわかる。そのため、頻度の多寡はもちろん、複数教科や複数の学年にまたがる語なのか、特定の教科や学年の使用に偏っているのかなど、多くの情報を容易に視覚的に把握できる。しかし、表1、2に示したように全体量が非常に多いものである。そこで、教科・学年の頻度情報をもとに、教科書においてより重要度が高いと考えられる語を絞り込むこととした。教科や学年の範囲と頻度を基に、学習のためにより重要だと考えられる語彙として、次の4種を抽出し、これらをまとめて「教科書基礎語」という形でリストを提供することにした。(山本・川村・鷲見 2024b)

学習基礎語1(555語): 5教科の全ての科目で、最低1回は用いられている語。これらは総じて頻度が高く、頻度30以上の語が516語と93%を占める。

例: する, いる, こと, ~よう(な), ある, 見る, なる, ~さ, 調べる, 考える, 書く, ~方, 使う, 時, どの, できる, もの, ~など, ~さん, 作る, 年, 数, 人, 言う, 水, 市, 言葉, ~について, 県, ~たち (頻度の高いもの上位30語)

学習基礎語2(843語): 5教科のうち、いずれか4教科で、最低1回は用いられている語および複数教科での教科基礎語となるもの。

例: センチメートル, ~個, メートル, 日本, 倍, どのような, ~円, 問題, 学ぶ, ~形, 式, 計算, ~人, 図, 求める, 量, 関係, めあて, 地域, 説明, 結果, 情報, 行う, 右, 予想, 川, 例, まとめ, 働き, 変化 (頻度の高いもの上位30語)

教科基礎語(557語): 教科ごとに3~6年の全ての学年の教科書で用いられている語。ただし、複数教科でこの条件に該当する語は、その教科の語とは言えないため、の学習基礎語2に含める。以下に各教科基礎語の頻度上位の語を例として示す。

社会基礎語 例: 人々, 工場, 学習問題, 盛ん(な), 主な, 産業, 戦争, ~による
算数基礎語 例: 三角, 万, 辺, 位, 分数, 直線, グラム, 少数, 方形, 角, 三角形
理科基礎語 例: 空気, 実験, 体積, 液, 気温, ~水, 金属, 変わり方, 磁石
国語基礎語 例: 文章, 人物, 漢字, 表現, 登場, 組み立て, 語, 筆者, 登場人物

生活基礎語（133語）

「生活科」で用いられている語のうち、、 に該当しない語。また、 の基準では、低学年の重要な語句が漏れてしまう可能性があるため、それを避けるため、1、2年の教科書のうち、3教科以上で用いられている語で、、 に該当しない語もこれに含めることにした。以下に生活基礎語の頻度上位の語を例として示す。

例：重り、飴、～冊、蝶、うがい、探検、ありがとう、モンシロチョウ、挨拶、ダンゴムシ、家の人、がんばる、枝、アゲハ、お互い、セロハンテープ
--

教科書基礎語は、異なり語数では、計2,088語（全体の約11%）となるが、延べ語数では345,141語（全体の77.5%）であり、教科書全体の4分の3以上をカバーし、繰り返し使われる語である。また「学習基礎語」について、JLPTのレベルとの関係を見たものを表4に示す。

表4 レベル別割合（N=1,324）

JLPT	数（割合）	例
N1	59（4.5%）	災害、緊急、栽培、施設、見通し、仕組み、身の回り
N2、N3	442（33.4%）	生き物、絵具、考え、新た、じっと、落ち着く、余る
N4	278（21.0%）	牛、関係、危険、おかげ、美しい、いっぱい、植える
N5	437（33.0%）	お母さん、顔、学校、赤い、いくつ、いっしょ、行く
級外	108（8.2%）	インターネット、段ボール、取り組み、考え方、置き換える

なお、レベル判定には、リーディング・チュウ太（<https://chuta.cegloc.tsukuba.ac.jp>）の語彙チェッカーを活用した⁴。

学習基礎語に含まれる語は、JLPT N4とN5のいわゆる「初級語」が54%と半数を占めるが、その一方で、N2、N3が33.4%、N1が4.5%、級外語彙も8.2%程度含まれている。N2、N3（中級）の語彙がある程度の比率を占めるのは、当然ともいえるが、N1の語や級外の語についても、小学校での教育を受けるために必要な語として留意する必要がある語が並んでいることがわかる。これらの語彙を教科書で用いられている文例も含めて提示していくことで、学習に役立つ語彙リストとして、より活用の可能性が広がると考えられる。

（3） 成果の公表

語彙リスト作成の過程で、運用実験を行い、その結果を国内外の学会で発表した。発表件数は25件である。また、7本の論文としてまとめた（予定も含む）。

最終年度において、完成した語彙リストは、WEB版小学校教科書語彙リストとして、無償公開を開始し⁵、関連する国内外の学会で発表した。現在、すでに、日本語研究者、日本語教育関係者等がリストおよび検索システムの活用を開始している。今後、教育現場との更なる連携の下、具体的な活用方法の提案をしていきたい。

<注>

1. <https://maze.overworks.jp/check.html>
2. <https://maze.overworks.jp/aggr.html>
3. <https://maze.overworks.jp/join.html>
4. 語彙チェッカーでは、形態素解析にはChasenを用いている。そのため、レベル判定の結果の単語区切りは、Chasenに準拠したものになっている。
5. <https://shogakugoi.nihongo-de.com>

<引用文献>

1. バトラー後藤裕子（2011）『学習言語とは何か—教科学習に必要な言語能力—』三省堂。
2. 山本裕子・川村よし子・鷲見幸美（2022）「小学校社会科教科書の語彙調査—社会科共通語彙の特徴を探る—」『日本語教育方法研究会誌』、pp.14-15.日本語教育方法研究会。
3. 山本裕子・川村よし子（2023）「形態素解析技術と日本語教育—形態素解析の問題点をどう克服するか—」『CASTEL/J2023 第10回国際研究集会予稿集』、pp.111-115.日本語教育支援システム研究会。
4. 山本裕子・川村よし子・鷲見幸美（2023）「小学校教科書で用いられている単語と複合語の抽出—小学校教科書語彙リストの公開に向けて—」『2023年度日本語教育学会春季大会予稿集』 pp.290-294.日本語教育学会。
5. 山本裕子・川村よし子・鷲見幸美（2024a）「WEB版小学校教科書語彙リストの公開—学習支援での活用に向けて—」『日本語教育方法研究会誌』30-2、pp.110-111.日本語教育方法研究会。
6. 山本裕子・川村よし子・鷲見幸美（2024b）「『教科書基礎語』の抽出—小学校教科書語彙リストをもとにして—」『2024年度日本語教育学会春季大会予稿集』 pp.222-227.日本語教育学会。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 鷲見 幸美、松浦 光	4. 巻 7
2. 論文標題 小学校社会科教科書における容器のメタファー：多様な言語文化背景をもつ子どもたちの教科学習支援に向けて	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 名古屋大学人文学研究論集	6. 最初と最後の頁 47～67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18999/jouhunu.7.47	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山本裕子	4. 巻 13
2. 論文標題 小学校社会科教科書の語彙はどのようなものか -教科書語彙の特徴の抽出に向けて-	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 愛知淑徳大学論集－交流文化学部篇－	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 北村 達也、川村 よし子	4. 巻 15
2. 論文標題 小学校低学年向け教育番組の音声における単語出現頻度の調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 甲南大学紀要. 知能情報学編 = Memoirs of Konan University. Intelligence & Informatics Series	6. 最初と最後の頁 13～24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14990/00004373	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 鷲見幸美	4. 巻 116
2. 論文標題 小学校教科書に埋もれた比喻の身体性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 表現研究	6. 最初と最後の頁 30-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鷺見幸美	4. 巻 6
2. 論文標題 小学校低学年教科書に見られる比喻	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 名古屋大学人文学研究論集	6. 最初と最後の頁 41-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18999/jouhunu.6.41	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本裕子	4. 巻 12
2. 論文標題 「文法項目」から見たアニメのスク립ト分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知淑徳大学論集－交流文化学部篇－	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本裕子・小川満梨奈	4. 巻 14
2. 論文標題 コーパス分析システムを用いた『アニメの日本語』の語彙的・文法的特徴の抽出の試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知淑徳大学論集 グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科篇	6. 最初と最後の頁 43-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 10件)

1. 発表者名 山本裕子・川村よし子
2. 発表標題 用例提示機能を備えたWeb版「学習基礎語リスト」の開発
3. 学会等名 第27回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 山本裕子・川村よし子・鷺見幸美
2. 発表標題 『教科書基礎語』の抽出 - 小学校教科書語彙リストをもとにして -
3. 学会等名 2024年度日本語教育学会春季大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 山本裕子・川村よし子・鷺見幸美
2. 発表標題 WEB版小学校教科書語彙リストの公開 - 学習支援での活用に向けて -
3. 学会等名 第62回日本語教育方法研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 鷺見幸美
2. 発表標題 小学校教科書における「まとめる」の意味をめぐって
3. 学会等名 第9回日韓学術交流会(国際学会)(国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 鷺見幸美
2. 発表標題 動詞「まとめる」の多義構造
3. 学会等名 東アジア日本学研究国際シンポジウム(国際学会)(国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 鷺見幸美・松浦光
2. 発表標題 日常生活において見えない物理的事象をどう捉えるか?—小学校理科教科書から見えてくるもの-
3. 学会等名 第5回上海財経大学・名古屋大学合同研究会(国際学会) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 鷺見幸美・松浦光
2. 発表標題 小学校理科教科書における容器のメタファー
3. 学会等名 第8回上海師範大学・名古屋大学言語文化学術交流会(国際学会) (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 山本裕子・川村よし子
2. 発表標題 形態素解析技術と日本語教育 形態素解析の問題点をどう克服するか—
3. 学会等名 CASTEL/J2023第10回国際研究集会 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山本裕子・川村よし子・鷺見幸美
2. 発表標題 小学校教科書で用いられている単語と複合語の抽出 - 小学校教科書語彙リストの公開に向けて -
3. 学会等名 2023年度日本語教育学会春季大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山本裕子・川村よし子・鷲見幸美
2. 発表標題 小学校社会科および理科の教科書語彙の特徴
3. 学会等名 第60回日本語教育方法研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山本裕子・川村よし子
2. 発表標題 小学校の学習に必要な語彙はどのようなものか 社会科と理科の教科書の語彙調査をもとに
3. 学会等名 子どもの日本語教育研究会第8回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山本裕子・川村よし子・鷲見幸美
2. 発表標題 小学校社会科教科書の語彙調査 小学校で学習する語彙の特徴の抽出に向けて
3. 学会等名 2022年度日本語教育学会秋季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本裕子・川村よし子・鷲見幸美
2. 発表標題 小学校社会科教科書の語彙調査 社会科共通語彙の特徴を探る
3. 学会等名 第 59 回 日本語教育方法研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 本田ゆかり・川村よし子
2. 発表標題 「初級日本語教科書出現語彙チェッカー」の開発
3. 学会等名 CAJLE (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鷺見幸美
2. 発表標題 小学校教科書に埋もれた比喻：「表演技法」としてではない比喻に着目した分析
3. 学会等名 第59回表現学会全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鷺見幸美
2. 発表標題 小学校低学年教科書のメタファー：抽象的な物事の捉え方の学習
3. 学会等名 東アジア日本学研究国際シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鷺見幸美・松浦光
2. 発表標題 小学校社会科教科書における空間・移動のメタファー
3. 学会等名 第7回上海師範大学・名古屋大学合同研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 鷺見幸美・松浦光
2. 発表標題 小学校社会科教科書における容器のメタファー
3. 学会等名 第4回上海財経大学・名古屋大学合同研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山本裕子・本間妙・Matthew Lanigan・川村よし子・小森早江子
2. 発表標題 「コーパス分析システムの公開と日本語教育への活用」
3. 学会等名 第24回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム（16th EAJS International Conference 2020共催）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鷺見幸美
2. 発表標題 「小学校低学年教科書の多義語」
3. 学会等名 第3回上海財経大学・名古屋大学合同研究会：ことばと思想 コロナ危機を越えて
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山本裕子
2. 発表標題 「文法項目」から見た「アニメの日本語」
3. 学会等名 第57回日本語教育方法研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本裕子・小川満梨奈
2. 発表標題 アニメに用いられる日本語-スクリプト分析による語彙的・文法的特徴の抽出の試み-
3. 学会等名 2021年度日本語教育学会秋季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本裕子・本間妙・小川満梨奈
2. 発表標題 頻度分析によるアニメの語彙的特徴の抽出
3. 学会等名 AATJ Annual Spring Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 川村よし子
2. 発表標題 「リーディング・チュウ太の現状と課題」
3. 学会等名 筑波大学シンポジウム「日本語語彙辞書を利用した新たな研究」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川村よし子
2. 発表標題 <やさしい日本語>とリーディング・チュウ太」『<やさしい日本語>と日本語教育』
3. 学会等名 日本語教育学会2021年度支部集会【関東支部】
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 川口直巳（愛知教育大学），西山幸子（愛知教育大学）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 愛知教育大学 外国人児童生徒支援リソースルーム	5. 総ページ数 42
3. 書名 いまさらだけど多文化共生ってなに？	

〔産業財産権〕

〔その他〕

研究成果の公開： https://nihongo-de.com において、研究成果である小学校教科書語彙リストを公開している。
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	鷲見 幸美 (Sumi Yukimi) (50340211)	名古屋大学・人文学研究科・准教授 (13901)	
研究分担者	川口 直巳 (Kawaguchi Naomi) (60509149)	愛知教育大学・教育学部・准教授 (13902)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	川村 よし子 (Kawamura Yoshiko)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------